



常陸太田市立幸久幼稚園 0294-72-7006 園児数59名 令和2年1月31日

暦の上では『春』になる2月です。幼稚園は、子供たちの元気な声や明るい笑顔で、いっぱいです。

さて、今月は園外保育で図書館へ行きます。たくさんの絵本に囲まれながら、自分の好きな絵本を探して借りてきます。

そこで今回は、『家庭教育応援ナビ』の家庭教育コラムより、「読み聞かせ」についてご紹介します。

【「読み聞かせ」で生きる力を育む】

朗読家 見澤 淑恵 氏

私が絵本の読み聞かせの時に意識しているのは、子供たちにとって「聴く」になることです。『聴』という漢字は、「耳」に「目」と「心」をプラスして『聴』になります。つまり、目と耳と心で絵本を感じてもらいたいのです。

絵本の読み聞かせは、テレビやDVDとは違い、読んでくれる人がいて完成します。言葉を音にするだけでなく、その言葉の意味も声に乗せて伝えることができます。耳の時代といわれる幼児期の読み聞かせは、人間らしい心のともなった声で語られることに意味があると思います。

子供たちは、何度でも気に入った絵本を「読んで」と持ってきますよね。同じ絵本でも、同じ語り手であっても、昨日と今日の読み聞かせが全く同じということはありません。絵本を通して読み手と聞き手がコミュニケーションを取りながら、一つの世界を共有しているということが、子供にとっては嬉しいのです。

さて、体験が多いほど「生きる力」になると言われているのはご存知でしょうか。実際に体験していることを直接体験とすると、絵本は間接体験であると言えます。読み聞かせは、わずか数分間で、自宅で、我が子にリアルな間接体験をさせてあげることができるのです。ぜひお試しください。

一部抜粋

⋮